

I 実践

1 研究主題 「自ら学び、自分の大切さを理解するとともに、他の人を支援する能力や態度の育成」

(1) 主題設定の理由

本校では、教育目標として「自らを高め 力のある人間となれ」を掲げている。その具現化をめざして、人権教育の目標を、「自ら学び、自分の大切さを理解するとともに、他の人を支援する」こととした。「自ら学び」とは、人権問題に関する知識や関心を高め、生徒自身が人権を、自分たちと関わりのあることとして学んでいくことである。そして「他の人を支援する」とは、いじめや偏見と誠実に向き合い、世の中に数多く存在する人権問題を目にしたときに行動できる力を身につけることである。そのような生徒が育成できるように、よりいっそう人権教育を充実させる事を狙って、研究主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ① 人権教室の実施
- ② 全校参加での人権教育への取り組み

2 実践内容

(1) 人権教室の実施

- ① 人権擁護委員の協力を得て、人権教室を実施した。一学年の全クラスで人権問題に関するDVD「見上げたい空」を鑑賞し、講師の方の講話を聞くことで、いじめをなくすためにはどうすればよいのかについて考えることができた。話し合い活動では、各クラスとも活発に意見を出し、いじめにどう向き合うことができるのかを考えることができた。



生徒の感想

- ・いじめは絶対にいけないことがわかりました。いじめは人権侵害だと言うことが、よくわかりました。いじめは一人で抱え込まず、親や先生、友達に相談した方がいいということを学びました。
- ・このビデオを見て、いじめられている人も辛いけど、いじめている人も辛いんだと思いました。
- ・「いじめている」ということは、何も正しくないから、絶対にしてはいけないと思いました。

(2) 全校参加による人権教育への取り組み

① いじめ撲滅標語の募集

生徒会主催でいじめ撲滅のための標語を募集した。全校で人権作文を読んだ後、いじめを撲滅するための標語を作り、その中で優秀と思われる作品を選出して表彰した。

<いじめ撲滅標語入選作>

大賞 「心の手 みんなで繋げば いじめなし」

中央委員会特別賞 「「いじめ」って 軽い言葉に 変えないで」

本部生徒会特別賞 「ともだちを たいせつにしよう そうしよう」

② 丘中いじめ防止フォーラムの実施

2学期終業式の日にいじめ防止フォーラムを実施した。生徒は、いじめ防止フォーラムに際して、事前に全クラスで「いじめはなぜ起こるのか、どうすればいじめを防ぐことができるのか」について話し合いを持ち、意見を出し合うことで、人権意識を高めることができた。

当日は、生徒会によるプレゼンテーション、いじめをテーマにした寸劇、各学年の代表生徒によるパネルディスカッションを行い、「いじめ防止のための丘中宣言」を採択した。



パネルディスカッションの様子

<いじめ防止フォーラム 丘中宣言>

- ・ いじめは絶対に許さないという雰囲気を作ります。
- ・ いじめを見て見ぬふりをしないという強い意志を持ちます。
- ・ 痛みの感じ方は人により目盛りが違うという強い意志を持ち、自分中心の考え方を改めます。

(3) 人権コーナーの活用

生徒自身が考えを深め、生徒同士の考えや意見を掲示し、お互いの人権意識を高めることを狙い、各学級に人権コーナーを設置した。道徳の授業とも連携を図り、生徒の人権意識の高揚を図っていく。

II 今後の課題

人権教室やいじめ撲滅標語の作成、いじめ防止フォーラムの実施によって人権問題についての意識を高めることができた。いじめ防止フォーラムは、生徒達が、お互いの人権を尊重し、思いやりの気持ちをもって、さらに中学校生活を充実させようという思いで、自ら計画し、実施したことに大きな価値があると考えます。今後はいじめ防止フォーラムの丘中宣言を実践し、人権問題と向き合うための環境を作っていくことが課題になる。生徒中心の活動を継続していきたい。また、生徒だけでなく、職員間の人権意識を高め、さらに充実した人権教育ができるようにしていきたい。

III 人権コーナー設置の様子

職員室付近の掲示コーナーに人権コーナーとして「心と命の教育」を作成した。人権に関するメッセージなどを掲示することにより、人権について考える機会を増やすことができた。

また、各学級に学活および人権コーナーとして「こころのひろば」を設置し、クラスで人権について考える機会を設けた。

